

知事との県民対話集会（小海町）概要

- ・開催日時 令和5年2月18日（土） 午前10時30分から正午まで
- ・会場 小海町役場 2階大会議室
- ・参加者 県民77名、黒澤小海町長、阿部知事、高橋佐久地域振興局長
- ・テーマ 地域の資源を活かしたまちづくりをめざして～訪れる人すべてが憩えるまちの実現に向けて～

・主な発言（要旨）

【参加者】

・自分自身が心地よいと感じる場所を企業の皆さんに体験してもらっている。心地よさが住民にも伝われば、「憩うまちこうみ」につながっていくと思う。

【参加者】

・企業を受け入れる中で、自然だけでなく、町全体でお客様を迎えている温かさを感じていただいている。町だけでなく南佐久郡の皆さんにも協力いただきながら、また、企業の皆さんにも力を貸してもらいながら、憩うまちをつくっていききたい。課題は、Wi-Fi環境やタクシー等の移動手段の不足、町民の認知度向上であると考えている。

【知事】

・居心地のよさを企業へ提供していくことはいいこと。企業や団体とのつながりにより安定的な交流につながっていくと思う。

・女性や若者から選ばれる県づくりを目指しているが、人口増への転換は難しいので、交流人口を増やしていくことが重要である。信州リゾートテレワークとしてワーケーションを推進しており、憩うまちこうみの取組についてもできることは協力したい。

・利便性の高い移動を確保する上では、現在の公共交通資源では足りないと思う。カーシェアリングや電動カートなどグリーンスローモビリティ等を一緒に考えていきたい。

・課題はあるが、県内のWi-Fi環境の整備とキャッシュレス化は推進したい。

【参加者】

・良質なカラマツが合板に利用されているが、建築用材として公共施設ほか民間施設にも活用してほしい。

【知事】

・現在は、価格の高いところで取引されてしまう。製材の流通のあり方を考えないといけない。生産から消費までしっかりした関係性をつくる必要があると思う。

・県有林の木材が県施設で利用できるようにしたい。

【参加者】

・南佐久地域の人口減により、小海高校に入学する生徒が減少していることが課題。高校がなくなってしまうのではないかと心配している。高校がなくなるとさらに子育て世代が減少するような悪循環に陥るのではないかと。南佐久地域や小海高校についてどのように活性化したらよいか。

【知事】

・南佐久については、やりようがあるのではないかと認識している。中部横断自動車道が開通すれば人の動きが変化する。通過されてしまうか、惹きつけることができるかで大きく違うので、地域をどうするかを町民全員で考えていかないとはいけないと思う。

・地域が発展する要素は、医療と教育であると思う。その点で小海高校は非常に重要である。地域の人材育成や地域振興の上で高校は不可欠。

・高校は人口減少の中で一定程度、再編・統合をしていかざるを得ないが、単なる再編統合ではなく高校の特色をどう出すか考えないと、地域の期待や子どもたちのニーズに対応できない。

・南佐久は農業と林業を人材面でサポートできる高校をつくっていかないとはいけない。

【参加者】

- ・小海町に来て約2年。社員7名中ほとんどが移住者である。WEB開発のほか地域のICT教育の推進として小学校教員へのプログラミング学習のサポート等を行っている。
- ・この地域は、例えば、林業従事者が少ない課題についてロボットによる伐採や植林する技術を特区として掲げるなど、実証実験のフィールドとして魅力を感じる事業者が多いのではないかなと思う。

【知事】

- ・つながり人口や移住者が多い地域の特色は、フラットな関係性。周りの人たちが若者を対等に扱ってくれている。地域の課題を一緒に解決したいと思っている若い人はたくさんいる。そういう人たちに対し、地域がウェルカムという雰囲気を出すと来てくれる人が多いと思う。
- ・特区の提案については、県もITバレー構想を進めたり、空の移動革命としてドローンや空飛ぶ車ができるだけ早く社会実装できるようにしていきたいと思っているので、そうした分野での実証実験ができる場所にしていきたい。

【参加者】

- ・小海高校に通っていたが、冬に校舎が寒かったのでなんとかしてほしい。

【知事】

- ・高校の断熱性向上プロジェクトなどを小海高校でもやってみてはどうかと思う。

【参加者】

- ・森林組合が皆伐し、木材を売っても、土地所有者にはお金がほとんど入らない。森林づくり県民税を土地所有者に還元できないか。

【知事】

- ・主伐したときには一定程度お金が入ると思う。
- ・適正な価格で取引して、適正な価格で利用できるようにしたい。木材が安定的に流通、消費できるような仕組みをつくり、林業が産業として成り立つように取り組んでいく。そういう方向として森林づくり県民税を使わせていただく。

【参加者】

- ・集落として維持ができなくなった土地を企業へ貸し出すことができればよいのではないかな。広い土地があれば実験区のようなものとしての活用もできる。
- ・高校と企業が接することがなく、高校生がいろいろな考えを身につける機会が少ないと感じる。企業が直接高校に行って話す機会を増やしたらよいのではないかな。

【知事】

- ・維持できない集落の土地を企業へ貸すということは以前から思っていた。県ではできないので市町村の協力が必要。
- ・高校再編にあたり、学校空間のあり方の検討を有識者と行った際に、一斉の学びでない空間にする、地域との交流の場とするといった斬新な提案が出された。
- ・空き教室が増えているので、学びの支障にならない範囲で、地域の人たちが学校に出入りするようなつながりをつくっていかないといけないと思う。

【参加者】

- ・南佐久をウェルビーイングのモデル地域にしてほしい。県に相談できる窓口があればよい。

【知事】

- ・地域振興局がサポートする形にしたい。一緒に考えさせてほしい。

【参加者】

- ・ドローンの活用に関し、日本の場合、土地の上空の権利は土地所有者にある。土地所有者に地道に声をかけている企業もあるが、県としての対応はいかがか。

【知事】

- ・ドローンに関する意見は、特区などの話を考えてこじあけないといけない。日本は所有権が強く、県としてのルールづくりはなかなか難しい。

【参加者】

- ・「学びと自治」の「自治」について具体的に聞きたい。
- ・自給圏について、何をどうすれば自給ができるのか。食料やエネルギーなど市町村ごとにバロメーターをつくって比較できればよいのではないか。

【知事】

- ・この対話集会も自治。自分たちが実現したいことを実現できることが自治の根幹。
- ・地域内経済循環については新総合計画にも盛り込んでいる。来年度、エネルギー自立地域を目指す市町村への補助を予定している。今までは世界中から安いものを持って来ればよかったが、そういう状況ではない。地域にはよい資源があるのに有効に使われていない。地域内で循環させていかないとけない。